
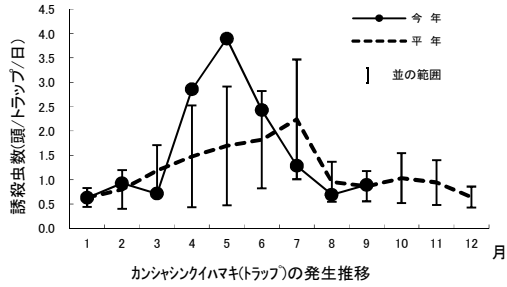
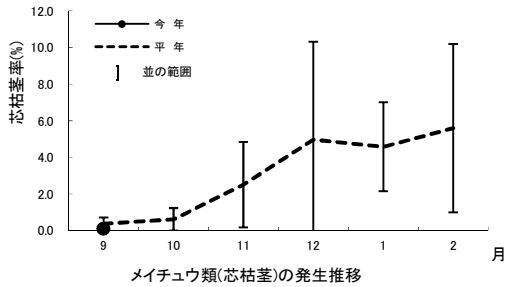


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
9月の発生量(現況)	並		
10月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、9月と同程度の発生量と考えられる。		

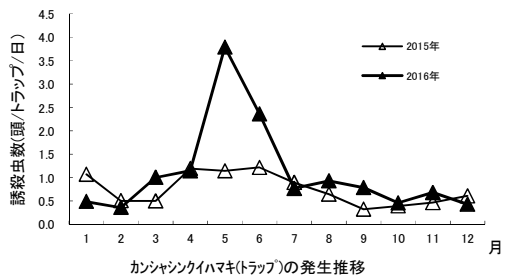
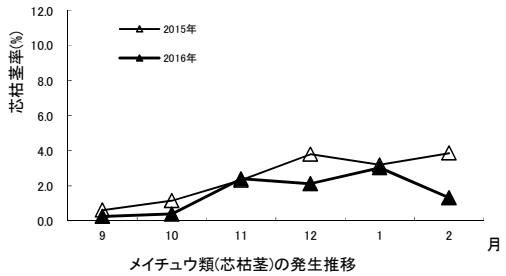
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 9月下旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は0.1% (前年0.3%、平年0.4%) と平年並であった。また芯枯莖切開調査の結果、確認された幼虫は全て本種であった。
- ・ 9月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.9頭 (前年0.8頭、平年0.9頭) と平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島でメイチュウ類多発生で増加傾向であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

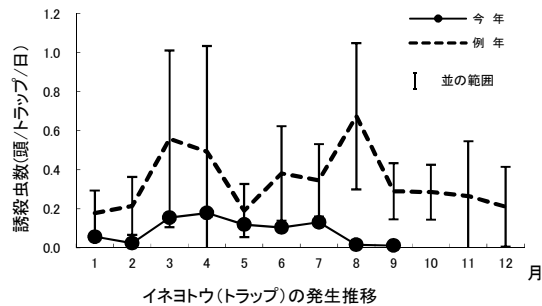
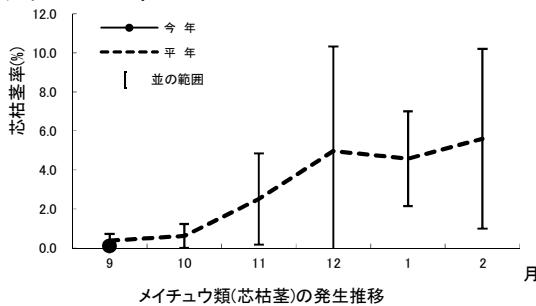
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
9月の発生量(現況)	少		
10月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、9月と同程度の発生量と考えられる。		

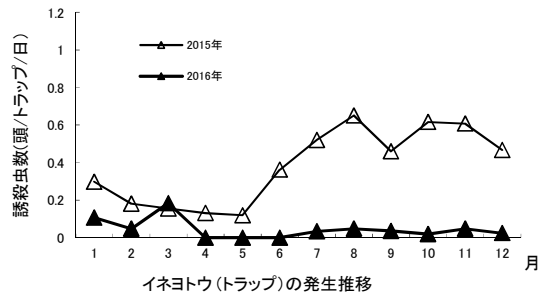
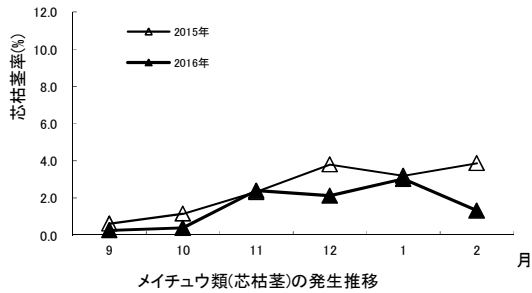
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 9月下旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は0.1% (前年0.3%、平年0.4%) と平年並であった。但し芯枯莖切開調査の結果、確認された幼虫に本種は含まれなかった。
- ・ 9月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭未満 (前年0.1頭未満、例年0.2頭) と例年より少なかった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島でメイチュウ類多発生で増加傾向であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

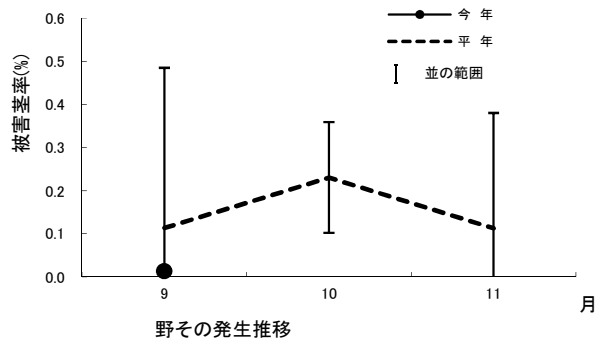
- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ 野そ		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	被害茎率の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

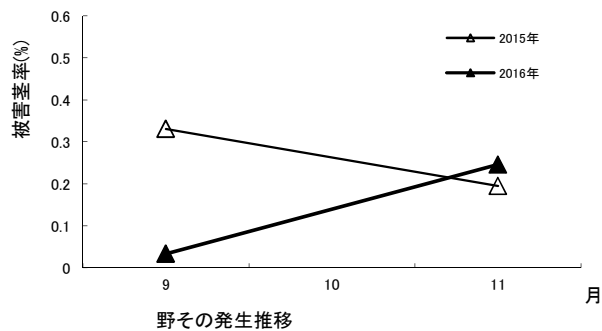
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、夏植ほ場における被害茎率は0.1%未満（前年0.1%未満、平年0.1%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・ 野積みされた剥葉残さなどに巣を作ることから、野積みを行わない。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。